

# 史料館 News

VOL.02

史料館News VOL.02は、カヤバの歴史とシールについて掲載をさせていただきます。  
カヤバについてより一層知っていただくと幸いです。

## カヤバの歴史

- ・創業者の萱場資郎は、1898年4月1日生まれの宮城県仙台市郊外の七郷村という農村で育ちました。
- ・科学的な実験や研究をすることが好きで学生時代から熱中していたそうです。
- ・1919年に、資郎が21歳の若さで萱場発明研究所を東京・芝浦に開設しました。
- ・創業当時は、独創的なオレオ(※1)と呼ばれる飛行機の油圧緩衝脚を中心に生産活動を行っていました。
- ・当時は着陸時のバウンドが激しかったので安全で確実な着陸性能を持つオレオの研究開発を進め、1927年の萱場製作所の発足と同時に受注と生産を開始しました。
- ・しかし、外部から購入していた、革パッキン(※2)に油の漏れがあることにより頭を抱えていました。そこで資郎は革パッキンの自社内製の検討を行い、標準型を制定しようと決心し、1931年の後半からオレオの全部品を自社で内製することになりました。優秀な革パッキンのお陰で、オレオも無事故になったと言われています。
- ・このオレオの技術が現在のカヤバのDNA(基礎)となり、『振動制御技術』として、自動車のショックアブソーバ等、『パワー制御技術』として、ショベルカーのシリンダ等、現在のカヤバ製品に連綿と受け継がれております。

※1 オレオ(Oleo)・・・『Rubber Pads Oleo(=Oil) Landing gear』を略したもの。  
航空工学用語として使用されています。

※2 パッキン・・・往復や回転といった、運動面に用いられる運動用シールのこと。



萱場資郎さん



油圧緩衝脚=オレオ



## シールの展示

- ・カヤバの歴史でご紹介した、革パッキンの技術が現在も受け継がれております。
- ・2024年10月にシール関係者の方々にご協力をいただき、展示をリニューアルしました。
- ・シール生産の工程概要が追加されたことにより、どのように作られているのかわかるようになりました。
- ・岐阜東工場では、樹脂製品のシールを生産しており、シリンダ用シールは内製されたシールをほぼ100%使用して生産しています。(図1)
- ・また岐阜北工場では、ゴム製品のシールを生産しており、四輪や二輪に取り付けられます。一部他社製も使用しています。(図2)
- ・樹脂製品やゴム製品のシールは社内で使用する分だけ生産を行い、外部には販売をしておりません。



(図1)



(図2)

